

<p style="text-align: center;">事業の評価</p> <p>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</p>	<p>■成果 【全体】 ・3つの部会が合同で企画、設営、運営まで全て自分たちで取り組めたことは経験としてはよかった。 ・eスポーツやステージイベントなど集客の目玉となるものと、福祉や防災などの様々なジャンルのブースが同じ会場に存在していたことで、普段届かない層の人たちにも情報を届けることができた。 ・雨でコンパクトに実施したが、ひとつの会場で様々なブースを見ることができ、逆によかった。</p> <p>【総務部会】 ・サバイバルイベントは小学4年生以上の親子を対象に実施し、親子15組(合計17人)の参加があり、アンケートの回収率は85%であった。このイベントを通して、非常時における「食」と「備え」の大切さを伝えることができた。なお、アンケート集計結果より、サバイバルイベントにおける満足度は90%であった。 ・あまり体験してもらえない未就学児の初心者の方にも体験してもらうことができ、「ホッケータウン西蒲区」をPRできた。</p> <p>【保健福祉部会】 ・各ブースでの体験を通じて、来場者に支え合いや助け合い、健康づくりなどについて考えるきっかけや、その場に居合わせた来場者同士やスタッフといった様々な人と交流する機会を提供できた。</p> <p>【まちづくり・産業部会】 ・米と柿のブースに人が集まり、にぎわっていた。PRもうまくできた。 ・子どもたちに竹のおもちゃを体験してもらい、昔ながらの遊びに触れて楽しんでいた。</p> <p>■課題 【全体】 ・設定したテーマ、イベントの主旨が来場者にうまく伝わっていなかったのではないかな。なぜこのイベントをやるのか明確でないと、他の通常のイベントとの差がなく、自治協議会として実施する理由がないのでは。 ・3部会合同でやったわりにはバラバラのような気がした。 ・自分たちで企画、設営、運営まで全て行ったため、会場表示や雨天レイアウトなど細かいところまで気配り、準備する余裕がなかった。 ・マイクロバスは、日頃乗り慣れていないバスを利用するということが自体がハードルが高く、乗車率が振るわなかった理由の一つとして考えられる。今後運行する際は、そのような状況も考慮して工夫する必要がある。</p> <p>【総務部会】 ・体験については、今後の防災意識の向上につなげるための働きかけや、継続的な取り組みが必要である。 ・今回のイベントはやって終わりではなく、ここで出た課題や成果をどのようにつないでいくか、考える必要がある。</p> <p>【保健福祉部会】 ・支え合いや助け合いといった意識を育てていくためには、継続的な取り組みが必要と考えるため、今後も様々な手段で働きかけていくことが必要。 ・各ブースの趣旨や部会として掲げていたテーマを、来場者へ伝えるための工夫が不十分だった。今後の取り組みでは、このような視点も意識して行う。</p> <p>【まちづくり・産業部会】 ・出店ブースを検討するにあたり、来場者へ伝える内容の検討や、どうしたらうまく伝わるかの検討が不足していた。 ・来場者へ伝えようという工夫がないとなかなか伝わらないことを改めて実感した。今後、部会で取り組む際は伝えたい内容、伝え方について深く検討することが必要。</p>
<p style="text-align: center;">備考</p>	